

2021年9月21日  
JICA 横浜 海外移住資料館

## 第二回海外移住「論文」及び「エッセイ・評論」 講評

日本国内における外国人とのよりよい共生が課題となる中、日本人の海外移住の150年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として国際協力機構（JICA）は2019年に「JICA 海外移住論文」を創設しました。第二回からはより関心の裾野を広げたいとの願いから新たに「エッセイ・評論部門」を加えることとしました。

日本人の中南米への移住に関する研究結果及びエッセイ・評論を募り優秀な作品を発表することによって、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高めることを狙いとしました。

結果的に、「論文部門」で7名、「エッセイ・評論部門」で30名ものご応募をいただきました。当事者ならではの豊富な経験に裏付けられたもの、移住の歴史を多面的に理解するにあたって大変興味深いもの、ほとんど知られていない事実を発掘したもの、独創的で新しい視点から移住の歴史や日系社会を考察したもの、多文化共生社会のあり方を考えるにあたって示唆に富むものなど多様な作品が集まりました。

これらの応募作品を外部有識者による審査委員会にて審査した結果、「論文部門」では、最優秀賞にソアレス・モッタ・フェリペ・アウグストさんの「異境での戦時体験を記録して—マリオ・ボテーリョ・デ・ミランダと岸本昂—を事例に—」、優秀賞に柴田寛之さんの「ディアスポラ・ナショナリズムとしてのカチマケ抗争再考：バストスとレジストロの比較を通じて」を選考しました。また、「エッセイ・評論部門」では、最優秀賞に片山 恵さんの「知識の力—カーニバルから見たブラジルと日本—」、優秀賞に飯塚陽美さんの「日本人の中南米移住に関する歴史継承と多文化共生—沖縄県における移民の歴史啓発事業を事例に—」を選考しました。

論文部門では、二つの優れた論文が特に注目されました。ソアレス・モッタ・フェリペ・アウグストさんの「異境での戦時体験を記録して—マリオ・ボテーリョ・デ・ミランダと岸本昂—を事例に—」は、戦争に翻弄された二人の人物を取り上げ、ナショナリズム、他者と弾圧をキーワードに、その記録の

意義を包括的に論じた非常に興味深い内容が高く評価されました。柴田寛之さんの「ディアスポラ・ナショナリズムとしてのカチマケ抗争再考：バストスとレジストロの比較を通じて」は、ブラジル日系社会の勝ち負け抗争を、先行研究の分析とシャープな問題設定から新たな視点で深掘りしていることが高く評価されました。

エッセイ・評論部門では、片山 恵さんの「知識の力ーカーニバルから見たブラジルと日本ー」は、異文化理解のあり方を、日系人も多く関係したカーニバルでの原爆の山車をめぐり日本と現地の間で生じた解釈の齟齬を取り上げながら考察しています。日系社会の存在だけでなく、日本社会の問題、原爆問題、そして人類普遍的な問題にまで気づかされる内容であり、また日本語新聞の記事も活用されていることなどが高く評価されました。飯塚陽美さんの「日本人の中南米移住に関する歴史継承と多文化共生ー沖縄県における移民の歴史啓発事業を事例にー」は、日本人の移住の歴史を語り継ぎその理解者を増やすことが外国人の受容社会に繋がるということを、沖縄と在外日系人のネットワークや在沖縄日系人との関係から考察した興味深い内容であることから高く評価されました。

以上